

第1回スポーツ振興賞受賞作品概要

☆スポーツツーリズム賞		
国土交通省観光庁 長官賞	作品名 応募者	「スポーツコミッション」を活用した地域振興 ～日本一スポーツで笑顔あふれるさいたま市～ さいたまスポーツコミッション（埼玉県さいたま市）
	<p>作品の概要</p> <p>「さいたまスーパーアリーナ」や「埼玉スタジアム2002」をはじめとした充実したスポーツ施設、或いは、「浦和レッズ」や「大宮アルディージャ」に代表される豊富なスポーツ資源と、「大宮の盆栽や鉄道」「浦和のうなぎ」「岩槻の人形」といった特徴ある観光資源、さらには、首都圏の貴重な大規模緑地空間「見沼たんぼ」など豊かな自然を有する本市の特性を最大限に活用し、従来型の観光とは異なる新しい「スポーツ観光都市さいたま」を実現するため、本市におけるスポーツ関連マーケティングを一手に担う専門組織「さいたまスポーツコミッション」を全国に先駆けて創設した。</p> <p>初年度は、bjリーグオールスター、総合格闘技UFC JAPAN、さいたまシティマラソン等を通じて選手観客約19万人の交流人口を創出。会長自らが渡欧、オランダの「ロッテルダムトップスポーツ」と業務提携を締結。さらに「ツール・ド・フランス」を視察するとともに関係者にトップセールスを敢行。他にもさまざまな活動を推進している。</p>	
日本スポーツツーリズム推進機構 会長賞	作品名 応募者	第2四半世紀を迎えたMt. 鳥海バイシクルクラシック大会と地域活性化 矢島カップMt. 鳥海バイシクルクラシック大会実行委員会（秋田県由利本荘市）
	<p>作品の概要</p> <p>第1回矢島カップMt. 鳥海バイシクルクラシック大会は「ツール・ド・鳥海山」の愛称で1987年（昭和62年）8月2日全国15都府県から202名のアマチュア選手がエントリーし、開催された。</p> <p>大会の魅力を大きく向上させることをねらいに、第16回大会開催に向け、地元観光協会や体育協会などの12団体により構成される「矢島カップMt. 鳥海バイシクルクラシック大会実行委員会」が設立された。</p> <p>また、第17回大会からは、日本サイクリング協会の日本ヒルクライムシリーズ戦に加わり、大会知名度の向上、権威ある大会としての位置づけがなされエントリー者数も増大するきっかけとなった。</p> <p>これまで延べ参加選手は約1万7千人とその家族、仲間などが「矢島町」そして「鳥海山」を訪れている実績は、町の活性化、鳥海山観光の振興にとって大きく貢献しており、広域観光への波及効果は大きなものがある。</p>	

☆スポーツとまちづくり賞

経済産業省 商務情報政策局 長賞	作品名	「スポーツツーリズム」「スポーツによるまちづくり」を通じた産業・地域活性化の貢献～ ゴミ拾いはスポーツだ
	応募者	一般社団法人 日本スポーツGOMI 拾い連盟 (東京都渋谷区)
<p>作品の概要</p> <p>「スポーツ GOMI 拾い」とは、地域で行われているゴミ拾いとスポーツを融合させた競技。あらかじめ決められた競技エリアで、制限時間内に、チームで力を合わせてゴミを拾い、その質と量を競い合う。ルールが簡単なので、どのチームにも優勝のチャンスが有り、全国で約2万人の方がこれまで大会に参加された。「どこでも開催できる」「誰でも参加できる」「地域を巻き込むことができる」というのが主な特徴。</p> <p>2008年5月に活動を開始し、2012年12月までに131回のスポーツ GOMI 拾い大会を開催してきた。自治体との開催が6割、企業との開催が2割、その他が1割。開催のリピート率は8割を超える。また、多くのメディアでも取り上げていただいた。</p>		
日本商工会議所 奨励賞	作品名	廃線でサイクリング!?!「自転車とレールで風になる」レールマウンテンバイク 「Gattan GO!!」ガッタンゴ
	応募者	NPO法人神岡・町づくりネットワーク (岐阜県飛騨市)
<p>作品の概要</p> <p>奥飛騨の山あいの田舎町、飛騨市神岡町。旧神岡鉄道のレールの上を「ガタンゴトン」と軽快な音を響かせながら走っているのは、列車ではなく自転車。その名も「レールマウンテンバイク」。</p> <p>旧神岡鉄道の廃線後に残された「町のシンボル・地元民のルーツ」「鉄道遺産」を、手作りの「乗って楽しい」乗り物を走らせることで「そのままの形」で保存し活用したい、過疎化が進みつつある町を元気にする“町おこし”の起爆剤にしたいとレールマウンテンバイクは開発された。</p> <p>レールマウンテンバイクは、市販の自転車にレールの上を安全かつスムーズに走行できるように特製のフレームを装着した、基本的に2人乗りの乗り物。タイプは2種類で、全て自力で漕ぐノーマル車、電動アシストが付いたのんびりタイプのハイブリッド車。</p> <p>営業は旧神岡鉄道が廃線となった翌年から始まり、平成24年度で創業6年目を迎えた。操業当初は連休や土日だけの営業だったが、体験型のレジャーが少ない奥飛騨・飛騨高山方面の宿泊施設からの強い要望もあり、平成24年度から4月中旬から11月下旬までの平日も含めた営業を開始。乗車人数が2万人を突破、その半数が宿泊するなど経済的波及効果はかなり高い。</p> <p>創業当時から現在まで補助金や助成金は一切受けなくて黒字営業。事業性が高く評価され第11回日本鉄道賞の特別賞に選考された。</p>		
スポーツ健康産業団体連合会 会長賞	作品名	10市町村が主催し実現した日本最大の100マイルトレイルレース 「ウルトラトレイル・マウントフジ」
	応募者	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 (静岡県富士宮市)
<p>作品の概要</p> <p>2012年5月18日～20日の3日間、開催した100マイルトレイルレース。コースは富士山の山麓、登山道、歩道、林道などを走りつなぐ。各市町村に設置するエイドステーション(休憩所)を参加者と市民、ボランティアの交流の場とし、さらに地域の魅力を伝える場として地元の特産品などを参加者にふるまった。</p> <p>大会開催にあたり自然環境に配慮したコース設定と競技ルールを徹底させることにより自然環境への影響を最小限におさえることが出来た。開催を契機に、普段つながりのなかった山梨県静岡県の富士山周辺の10市町村の横のつながりが生まれた。</p> <p>大会では2,000人の参加者があり、それを支える1,000人近いボランティアで運営された。うち海外から100人近い参加者があり、国際色豊かな大会となった。大会開催後はNHK・BSで放送があった他、地元新聞社や各スポーツ雑誌に大きく取り上げられ注目を浴び、NHKの国際放送やEUROスポーツ放送により国外メディアにも多く取材を受けた。</p>		